

全国幼児教育 ESDフォーラム²⁰²¹

報告書[概要版]

テーマ

ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続：
幼児教育の原理・理念からのESDへの提言

全国幼児教育ESDフォーラムも3年目を迎えました。今年度は、過去2年の知見を幼児教育の原理・理念から省察し、質の高い幼児教育と学校種間の接続についてのまとめの年と位置付け、ステークホルダーとともに企画をいたしました。

第一部は、学校教育、社会教育、家庭教育をつなぐSDGsデジタル絵本プロジェクトの省察、第二部は、自然環境、福祉の視点から、人の発達をつなぐ「ソダツバ」を展開している社会福祉法人の実践の報告を中心に、行政による質の高い幼児教育の新しい研修スキームなどさまざまな立場から実践を省察、最後にESDにおける教師教育の要諦に関する提言がなされました。

概要版では、第一部・第二部の対話の抽象トクを中心に掲載いたします。詳細は、報告書をご覧くださいと幸いです。

【全国幼児教育ESDフォーラムのあゆみ】



【2021年度プログラム】

開会行事

静岡大学教育学部 学部長 熊倉 啓之 あいさつ

第一部

多セクターから幼児教育にせまる

～SDGsデジタル絵本にみるSDGsと幼児教育～

第二部

幼児教育の原理・理念からのESDへの提言

～グローバルシチズンシップを育む環境～

ポスター展示

(敬称略)

- デジタルプラットフォーム「ネットワークラボ」の取り組み(静岡大学教育学部)
- SDGsデジタル絵本(静岡市立日本平動物園)
- 持続可能な社会の創り手を育む生活・総合(静岡県生活科・総合的学習教育学会)
- ユネスコスクールの遊びと生活展(プロジェクト代表団:静岡市立東豊田こども園)
- ミズコンポストプロジェクト(富士市立田子浦幼稚園、富士市立原田幼稚園、富士市立豊原保育園、常葉大学附属橋小学校、富士市立中央小学校)
- 保育プロセスの質リフレクションシート(静岡県教育委員会幼児教育推進室)
- 富士市教育・保育訪問事業(富士市保育幼稚園課)
- 東田プロジェクト(NPO法人里山を考える会)
- アプローチ・スタートカリキュラム研究(御殿場市立原里小学校)
- ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続(静岡大学教育学部)

詳細な報告書はWeb上でご覧いただけます

>>>

「ネットワークラボ」と検索し、Webサイト内の「公開資料」をご確認ください
<https://knotworklab.com/data/1209/>



第一部

多セクターから幼児教育にせまる ～SDGs デジタル絵本にみるSDGsと幼児教育～

パネラー	柿島 安博氏(静岡市立日本平動物園 獣医師) 秋山 英範氏(春日製紙工業株式会社 直需部課長代理) 鈴木 守氏(常葉大学 教授)
ファシリテーター	田宮 緑(静岡大学 教授)

I はじめに

1. 本日の進め方

2. 第一部パネラー自己紹介

II SDGs デジタル絵本作製の舞台裏

1. SDGs デジタル絵本とは

- 田宮 (1) 日本平動物園と静岡大学教育学部の連携事業
(2) オリジナルはオランウータンのジュンを主人公にしたリーフレット「No one will be left behind 動物と一緒に地球の未来を考えよう」
(3) リーフレットからSDGs デジタル絵本へ「幼児でも理解できる媒体があるといい」に応える

2. リーフレット、SDGs デジタル絵本の特長

- 柿島 (1) リーフレットは統計データを使ってSDGsをわかりやすく説明、学校教育・社会教育・家庭教育で使える
(2) SDGs デジタル絵本は日本平動物園のほか4園でも活用されている
田宮 (3) 「つつい手にとりたくなる」という価値をリーフレットに与えた
(4) リーフレット活用の広がり～銀行窓口での配布、高校出前授業等で活用されている

3. パイロットスタディで得られた知見

- 大石 (1) 遊びや生活の経験から、すぐにオランウータンの状況を憂い、ゴミの分別を始める
(2) 子どもの発言から学ぶ教師～3か月後のエコクイズの場面では根拠に基づいた発言をするようになる

4. イラスト作成の背景

- 高見 (1) 重厚なテーマを背負っている一つ一つの絵～とても悩んだ
(2) 絵本に出会った子どもたちの姿に感動～子どもは前に前に進んでいこうとする
田宮 (3) オープンエンド～答えは一つではない

5. 企業のサポート「自分でつくるミニ絵本」

- 田宮 (1) 日本平動物園HPまで導くパンフレット～「自分でつくるミニ絵本」
(2) 昨年のフォーラムに参加した大日本図書さんがサポートに手を挙げてくれた
魚住 (3) SDGsに関する質の高い副教材や資料の要求は少なくない
(4) 小難しさがなくてつつきやすい

6. SDGs デジタル絵本の広報

- 柿島 (1) 「自分でつくるミニ絵本」日本平動物園ビジターセンターに配架、すぐはけてしまう
大高 (2) 静岡ユネスコ協会の機関紙や静岡大学教育学部同窓会誌で広報する
田宮 (3) ナレーションはSBSアナウンサーが音源を提供してくれた

7. 高学年バージョンのパイロットスタディ～焼津市立黒石小学校

- 増田 (1) 子どもたちがデジタル絵本を通して変容した
田宮 (2) マイ箸ブームの苦い経験から「ブームに乗るのではなく一歩立ちどまって考えたい」と話す管理職の学び
(3) 子どもたちは予想以上に高度なことを自分ごととしてとらえていった～対話を通してそれに気づく

8. ユースの動き～常葉大学

- 鈴木 (1) 手ずから作ることで～教員をめざす学生の学び
(2) 学生が主催するSDGs関連イベント～イベントの企画・運営で学ぶ学生
(3) 紙媒体のよさ、対面で学ぶことの重要性を再認識した
田宮 (4) 自分に何ができるかを一生懸命考える学生たち～大学教員としての醍醐味を味わう

9. 企業のSDGsへの取組

- 田宮 (1) ポストカードにFSC認証の用紙を使用～FSC認証とは？
秋山 (2) FSC認証とは何か
(3) SDGsの教育現場の取組に対し企業マンとして感じたこと
A:SDGsは語るよりも興味を持ってもらうことが大事
B:活動は楽しくなくては長続きしない
C:時代に合わせて内容をブラッシュアップする～企業での活動も教育現場も
田宮 (4) 「興味」、「楽しさ」、「ブラッシュアップ」がSDGs推進のキーワード

III 質疑

1. 中・高生…大人向けの展開について

- 近藤 (1) 質問一中・高生・大人向けの展開について何か考えていたら教えていただきたい
田宮 (2) 回答—冒頭で紹介したリーフレット「No one will be left behind」は大人を想定して制作～先生たちはSDGsの副教材を探しており、高校でも使用されている
田宮 (3) このリーフレットの続編の予定もある、予算など行政からの支援に期待

2. 葛藤場面における教師の役割

- 町 (1) 質問—SDGsを進めていくと、トレードオフの視点である種の選択をしなければならぬ段階が来る、その時どう進めていけばよいか
松本 (2) 回答—SDGsの17のゴールの内容の達成よりも問題を感じ取れる子どもを育てることが大事
A:自分とは違う考えを持っている子どもがいてもそれをほとんどねと受け止められる温かい子どもが育っていく

3. 「ESDが苦手な先生」について(チャット参加者)

- 向中野 (1) 質問—ESDが苦手な先生の反応や手ごたえについて知りたい
田宮 (2) 回答—「ESDが「苦手」とはどういうことをいうかがわからない、昔から学校教育は持続可能な社会をめざした営み

IV 外部評価委員・大安喜一委員のコメント

- 大安 (1) 国連信仰はよくない、国連が言っているからではなく、自分たちにどういう学びが必要かを自分たちで考えていけばよい
(2) 自分たちが今までやってきたことをESDやSDGsの視点でとらえ直すことが大事、そのためには対話や学びあい的大事になる
(3) 研修会では自分たちの経験を言語化して他の人に伝え、また他の人の話を聞いて自分たちのやってきたことを振り返る、その作業は国連やユネスコがいうことと、ESDやSDGsとつながっていると考えられる

V ワンヘルスという概念導入のプロセスでの学び

- 柿島 (1) 「ワンヘルス」=人、動物、生態系の健康はひとつ、この概念を高学年バージョンには取り入れたかった
(2) 新型コロナウイルス感染症をきっかけにワンヘルスという考え方が国際的に広がった
田宮 (3) 「慢性的危機と急性の危機の関連性」から「ワンヘルス」へバージョンアップするプロセス
(4) そのプロセスは、ヴィゴツキーの「発達最近接領域」
柿島 (5) SDGs デジタル絵本プロジェクトは楽しい仕事だった
田宮 (6) 複数の人が関わり創り上げていくプロジェクトの中に学びがある、ESDを推進する教師教育というのは、現場の実践と同様な様相を示しているのではないか、例えるならロシアのマリョーンカ

第二部

幼児教育の原理・理念からのESDへの提言 ～グローバルシチズンシップを育む環境～

ゲスト	屋敷 和久氏(宮城県 ソダツバヒカリ ひかりの森こども園 園長) 深澤 邦洋氏(静岡県立静岡城北高等学校 教諭)
ファシリテーター	田宮 緑(静岡大学 教授)

I はじめに

1. 第二部の概要

- 田宮 (1) 第一部を引き継ぎ幼児教育の原理・理念からESDにせまる
(2) 幼児教育を中央教育審議会の答申「令和の日本型学校教育」に照らして考えること…
(3) 幼児教育は答申よりも一歩先を歩いている感じもするが果たしてどうか、関係者の力を借りながら幼児教育の理念・原理からESDを推進する教師教育にせまる

2. 第二部ゲストの自己紹介

II ソダツバヒカリの実践を通して幼児教育の原理・理念を考える

1. ソダツバヒカリの紹介

- 深澤 (1) ソダツバヒカリの施設全体に対する印象～「世田谷ベース」
(2) 「いっぽのひかり」だけでなくどの施設にも木がふんだんに使われ、温かみのある空間には広がりがあり遊び心が感じられた
(3) キッズリターンクラブ(放課後児童クラブ)～大きな体育館のような施設
A:大きな体育館のような施設がある、子どもたちが運動会の練習をしていた
B:定員40人、スペースは広く、パーテーションで仕切りきれ「隠れ家的なコーナー」がたくさん設けられている
C:子ども自身がつくる遊びコーナー～パーテーションのパーツは業者に発注
D:コーナーだけでなく時間の使い方も自由、大人も子どもと一緒に遊ぶことができているのが一番の魅力
屋敷 (4) キッズリターンズクラブと「いっぽのひかり」の間にあるピオトープができるまで
A:ピオトープは健常児とハンディキャップをもっていきの子が出会う空間
B:ピオトープは日本環境財団のコンテストに参加、800万円の助成を受けた、南九州大学のゼミ生がコンテストを作ってくれた
(5) ダイバーシティを保障するコメーキングスペース
深澤 A:一言で言うと「和モダン」、ぬくもりがあり懐かしさを感じる、それでいて明るさとおしゃれさがある、いろいろな感覚が入り混じった空間
屋敷 B:社会福祉協議会と連携して運営、シルバーも雇用する福祉カフェ
C:不登校の子どもたちも来るなど老若男女、ハンディキャップを持った方など様々な方が集える場所
D:フリーベーパーブース～社会福祉協議会が全国からハイオリティーのフリーベーパーを集めて提供している
E:放課後デイサービス～ハンディキャップを持った放課後児童のクラブ
(6) シェルター(DVを受けたお母さんや子どもたちの隠れ家的な場所)を社協さんと共ににつけている
(7) 新プロジェクト～放置竹林の再生、地域の方々と知恵を出し合う、お金がなくてものりきる

2. 外部評価委員・松本謙一委員のコメント

- 松本 (1) 職員のありのままを受け入れる園長の姿勢がエネルギーとなる
(2) 子どもを認め、寄り添い、何を考えているかを探るところから始める
(3) 研修会に参加し熱い気持ちを感じる、それが明日の「がんばり」につながる

3. ソダツバヒカリの活動の原動力

- 屋敷 (1) 子どもたちの将来を見据えていく職員の日を養いたい、という思いが原動力となっている
深澤 (2) 園長は子どもたちの将来を長く見据えて教育する、一方、今の状態がどうなのかもとらえている

4. ひかりの森こども園について

- 田宮 (1) こども園の日常
A:磁石・秤を環境に位置付ける、絵本コーナーのソファー・ロフトのような製作コーナー、アフォーダンスを重視した空間を創造する
B:少人数で手ごたえのある活動が展開できる環境
C:遊びの後お湯を張ったプールに入りその後ごはんを食べる、子どもたちは自身の体と心の声を聴きながら遊びと生活を営んでいる
D:小動物を飼い生活の中で命を感じ、また命をいただく自身の存在を実感する
(2) 5歳児の部屋の前に掲示されていた文章から
桜 A:先生たちが子どもたちのことについて休み時間に書いている
B:自分たちのありのままの姿を園長が認めてくれるから、子どもたちのありのままの姿に関われる、そして、保育者は自然な心を表現することができる
田宮 C:文章の紹介—子どもたちの様子がきちんと書かれている
D:ソダツバヒカリには先生方が学び合う雰囲気がある、休憩時間の何げない会話で保育者に必要な感性(行間を読む力)や表現力が磨かれるのではないかと

III 新しい研修会のスタイルをともにつくりあげる

1. 子どもの遊びや生活から内面をとらえるために～ツール開発と研修会のスキーム

- (1) 「保育プロセスの質リフレクションシート」活用研修の実施
田宮 A:令和の日本型学校教育は十分な子ども理解から始まる、4年前からこの研修の構想を練ってきた
福井 B:ファシリテートを体験し各園所での研修の実施につなげる
田宮 管理職のファシリテート力を向上させる研修のスキームが必要
(2) 「ユネスコスクールの遊びと生活展」の開催について
海老名 A:「ユネスコスクールの遊びと生活展」の目的が現場が理解しはじめた
B:保育教諭の要望から事前・事後にESD実践研修会を今年度はじめて開催
芳賀 C:遊びと生活展—今までの思いとこれからの期待

IV 質疑・感想

1. これからの保育について

- 中川 (1) 質問—コロナ禍で保育はどう変わっていくか
屋敷 (2) 回答1—行事中心の園運営の動きが薄らいでいくのではないかと
田宮 (3) 回答2—コロナは保育の原点にもどるきっかけをあたえてくれた、保育の質の差が大きくなる

2. ESDに対する理解と本フォーラムについて

- 長尾 (1) ESDに対する私の理解、現場の保育の中で出てくる問題を子どもたち主体で互いに解決できるように支援することがESD
(2) 本フォーラムに対する感想 他の人や地域とつながること、またつながりを見つけていくことが大切と思った、デジタル絵本は一歩外の社会との接点を与え自分の生活を振り返らせるきっかけになると思った

3. チャット参加者の感想

- 名須川 (1) 保育を見直す機会になった、子どもに対してどのように接点を持つていかかが課題と気づいた、誰のための保育かを再考する時、ESDは子どもと環境の相互作用の原点につながる

V 新しい研修会のスタイル2

1. 富士市教育・保育施設訪問指導事業(静岡大学委託事業)の実施

- 田宮 (1) 富士市からの新しい研修会スタイルの提案～保育者一人一人が主役に
遠藤 (2) セミオーダーメイドの研修会のよさと効果を各国の感想から感じることができた
田宮 (3) 教科書がない幼児教育は、先生方が具体的学びを創り上げる、その学びを行政がフォローしている

2. 日本生活科・総合的学習教育学会 第30回全国大会を富士市で開催

- 和田 (1) フォーラムとソダツバヒカリの感想「生活科・総合的学習の時間(以下 生活・総合)」について思うこと
 A: フォーラムの感想、ソダツバヒカリの感想 久しぶりに人が集まる研修会に出た、ズームでは言葉はくることが出来ない、今日ここにいられてよかった
 B: ソダツバヒカリの子どもたちは遊んだ後おながすく話があった、楽しいだろうと思う、うちの学校の子どもたちはコロナの影響もあり給食も喉らないで食べているから残飯が多い、音楽の時間も小さな声で歌っている
 C: 学校で小中一貫の連携は進むが幼小に連携の壁・差がある、その差は福祉と教育の壁であるかもしれない、その点、ソダツバヒカリは教育と福祉と企業の連携が取れていて理想的だと思った
 D: 富士市では幼小を隔てる壁に風穴を開けようとする取り組みをしている
- (2) 生活・総合について思うこと
 A: 生活・総合のねらい・学習内容・学び方はESDのそれと重なる、ESDは生活・総合そのもので、生活・総合のことをやっていくことがESDをやっていくことになると思う
 B: 今までになかった視点に合わせるものが学校教育では大事、オランウータンの教材は新たな視点を与える、そこから新たな課題が見つかる
 C: 育てたい力を見定めて子どもたちを教育する、子どもたちには考えぬかせ自分の答えを出していく経験をさせる、それには生活・総合の教育がよい
- (3) 学会の全国大会を行うにあたって先生方が学んだこと
 A: 自分たちで創り上げる楽しさを感じた、幼稚園を含むいろいろな校種の人々と関わったことは収穫だった
 B: 全国大会を皆で創り上げていくことそのものが研修であったと感じた
- 田宮

VI まとめ 幼児教育の理念・原理からのESDへの提言

1. 提言

- 田宮 (1) 保育者が子どものありのままを受け入れる時子どもは主体性を発揮できる、保育者自身も管理職にありのまま受け入れられた時主体性を発揮できる、両者の関係が重層構造をなしていることを意識することで教育の質が向上する
- (2) 学校は社会の縮図、声にならない声を受けとめること、それがSDGsの基本である
- (3) 実体験の学びの中で本当の学びが進行する、実践をリフレクションしたり交流する場を一から創り上げることに教師としての本物の学びが成立する
- (4) PBLの中でエージェンシーを発揮する
- (5) 管理職のあり方も考えなくてはならない時期にきている、実践者の主体性を重んじるリーダーの寛容さがESDの推進には不可欠である
- (6) デジタルの急速な進展で人は直接会わないことも多くなり無力感を感じる、将来を担う子どもたちに接する先生には人と人との直接の関わりの中で喜びややりがいを感じてほしい、このフォーラムが先生たちに元気を与える場であってほしい

2. フォーラムの終わりにあたり

- 田宮 (1) 持続可能な社会を創造していく人たちが集うフォーラム、フォーラムで集まった人たちの先には未来を担う子どもたちや地域社会の人たちがいる、ゆえに多くの人々が私たちが応援してくれる、ESDをさらに進めていくための研修会がゲリラ的にできるといい

VII 外部評価委員・宮川秀俊委員のコメント

1. 自己紹介と講評の視点

- (1) 愛知県のユネスコスクールの加盟申請と加盟校の充実と展開に支援してきた、愛知県は加盟校が全国で一番多く(約160校)、全ての校種に加盟している、講評は、①組織活動、②ESDの教材、③ESDの進め方の3点について行う

2. 講評

- 宮川 (1) 講評1—組織と組織活動の展開方法
 A: 静岡のコンソーシアムの構成組織は多様であり今後も組織体制を拡充してほしい
 B: 今年は事業3年目のジャンプの年、今後も全国の方と連絡を取って進めてほしい
- (2) 講評2—ESDの教材
 A: 教科書がない幼稚園は先生たちに教育が任されている、それだけに教育を教材の視点から考えていくとよい
 B: 割箸の話には環境問題、経済問題が含まれている
 C: 教科書がないから先生たちが教材を作れる、世の中で起きている現象で「ここは使える」といったものを学習の場に持っていき、価値づけは後でもよい。
 D: 野球の折れたバット、バット製造から素材となる樹木の植林まで野球の話まで、幼児教育では無理かもしれないが小・中学校には入っていけるだろう
 E: 教材となるものは生活のいろいろな場面にあることを知っていただきたい
- (3) 講評3—ESDの進め方
 A: 方法1—伝え方、説明の仕方に留意する(井上ひささんの言葉などを参考にして)
 B: 方法2—ESDの取り入れ方、4通りを提案する

3. 最後にプロジェクトリーダーに向けて

先生は熱意いっぱいいろいろな話をされた、孟子の「天下の英才を得てこれを教育するは三楽なり」の言葉が思い起こされる。

動物と一緒に地球の未来を考えよう

No one will be left behind
動物と一緒に地球の未来を考えよう

動物と一緒に地球の未来を考えよう
～森は簡単には回復しないんだ～

●低学年バージョン ●高学年バージョン

SDGsデジタル絵本
動物と一緒に地球の未来を考えよう
～森は簡単には回復しないんだ～

自分でつくるミニ絵本 ポストカード

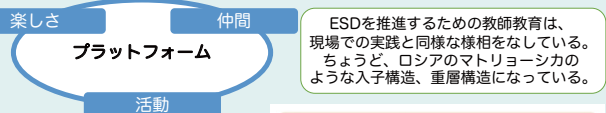
ナレーション付きデジタル絵本 プロモーションWG

国内の動物園でSDGsデジタル絵本を活用
 ○豊橋総合動植物公園 のんぼいパーク
 ○鹿児島市 平川動物公園
 ○宮崎市 フェニックス自然動物園
 ○茶臼山動物園

読売新聞
2020年2月8日朝刊

幼児教育の理念・原理からのESDへの提言

- 社会の縮図 学校、幼児教育施設は、社会のありようを映し出す
- 持続可能な地域社会の核 ローカルからグローバルへ
- 教師エージェンシー (Agency: 行為主体性) の発揮



- 教員研修のあり方
PBL (Project Based Learning)
- 管理職のあり方
ファシリテータの育成



全国幼児教育 ESD フォーラム 2021 報告書 概要版

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事務局 静岡県静岡市大谷836 静岡大学教育学部 TEL/FAX 054-238-3055・4659

全国幼児教育ESDフォーラム2021 実行委員長 田宮 緑